

## 『認知症の症状② ～心の状態や性格、環境によって出る症状 行動・心理症状～』について

中核症状は、認知症の方なら誰でも現れる症状だとわかったけど、行動・心理症状はどういったものなの？



「行動・心理症状」は中核症状が元にある生活が不自由になって生じる混乱や、周囲の環境、元々の本人の性格などによって、引き起こされる症状のことを言うんだ。

人によって現れる症状や程度が違って、家族や介護者の接し方や薬によって改善したり、悪化することもある。

中核症状と違って、すべての人に出るわけではなく、何か原因があって起きるんだ。「何が原因なんだろう」と本人の気持ちになって考えてみて。理由を取り除くことで、改善する症状もあるよ。

脳の細胞が死ぬ

### 中核症状

記憶障害 理解判断力の障害  
実行機能障害 見当識障害 その他

性格  
素質

環境・  
心理状態

### 行動・心理症状

不安 うつ状態 幻覚・妄想 徘徊  
興奮・暴力 不潔行為 その他

なるほど。中核症状と行動・心理症状の違いは例えばこういうこと？

#### 中核症状

「財布をどこかにしまい忘れる」



#### 行動・心理症状

「もの取られ妄想」



性格や環境など

「自分がしまい忘れるわけがない。  
誰かが盗ったんだ」  
「物の位置が移動した」など

そうだね。「財布をどこかにしまい忘れる（記憶障害）」は認知症の方ならだれにでも現れる症状。それに「自分がしまい忘れるわけがない」といった気持ちや元々の性格、物の位置が移動した等の環境の変化によって、もの取られ妄想の症状が出ることもある。裏面も参考までに、見てみてね。

## ちょっと一息。脳トレ



【うらへ続く】⇒

□の中のひらがなを縦・横につないで単語を作ってください。果物の名前が8個隠れています。

ぶ た ぬ た み ば な な ち ら み か  
も に り ー か ん あ さ め ろ ん も  
も れ り ん ご す な な し み ち ぶ  
し ん し き ん か ん し ぶ ど う ろ

りんご、バナナ、みかん、いちご、ぶどう、梨、みかん、りんご

# 中核症状と元々の本人の性格・環境で引き起こされる症状 「行動・心理症状」

## 【不安】

そばに人がいないと不安で落ち着かない。



## 【抑うつ】

好きだったものに興味関心がなくなる



## 【妄想】

大事な物が見つからないと誰かに盗まれたと疑う



## 【拒否】

必要な介護に抵抗する



## 【不衛生】

室内がゴミや物で散らかっている



## 【幻覚】

他者には見えない人や物におびえる



## 【道に迷う】

外出して戻れない



## 【暴言暴力】

急に怒り出したり攻撃的になる



## 【睡眠障害】

寝る時間になっても眠れない



などなど

 さまざまな症状が出るのには、必ずそれなりの理由があります。その根本原因が解消されない限り、似たような症状が繰り返し出ることもあります。体調、環境、周囲の対応の仕方などの原因によって生じるので、原因が何か考えて見るとよいです。

- ・ 心理的な要素（不安、さびしさ、怒りなど）
- ・ 周囲の働きかけの問題（いきなり手を掴んだ、大声で呼びかけた、行く手を遮ったなど）
- ・ 体の不調（便秘、脱水、空腹、痛み、かゆみ、運動不足、など）
- ・ 薬の影響
- ・ 環境（騒々しい、まぶしい、なじみがない、臭いがするなど）
- ・ 以前の習慣（毎朝会社へ行っていた、農家で畑を耕していたなど） など

 **対応のヒント**（認知症の方の病気や進行にもよっても変わってきますので参考まで）

- 認知症の症状が進行しても、感情やその人らしさは残ります。介護者が認知症の気持ちに寄り添い、尊厳を保ちながら不安や悲しみ、孤独感などを和らげるような関わりが大切になります。環境を工夫することで症状の軽減にもつながります。
- 本人はわかっています。  
もの忘れや今までできていた事が出来なくなる変化に最初に気付くのは本人。認知症の人の言葉にできない気持ちを理解し、本人が安心して暮らせる環境づくりが大切です。
- お薬の調整と副作用について  
不安定な症状が長期にわたる場合、本人だけでなく介護者の心理的な負担も増大します。そのため、心理的に落ち着かせるような対応で改善しない場合、薬で改善を図ることもあります。かかりつけ医とよく相談し、効果や副作用について、きちんと説明を受けて使用しましょう。